九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Serum levels of Wisteria floribunda agglutinin-positive Mac-2 binding protein reflect the severity of chronic pancreatitis

藤山, 隆

https://hdl.handle.net/2324/1931826

出版情報：九州大学, 2017, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

（別紙様式２）

氏　　名	藤山　隆
論　文　名	Serum levels of *Wisteria floribunda* agglutinin-positive Mac-2 binding protein reflect the severity of chronic pancreatitis
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　中西　洋一 副　査　　九州大学　　教授　　中村　雅史 副　査　　九州大学　　教授　　二宮　利治

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

慢性膵炎の診断は，膵組織所見，画像所見，臨床症状，血中または尿中膵酵素値の異常，膵外分泌障害などから総合的に診断されるが，組織所見は，その侵襲性から実臨床においてはほとんど行われておらず，内視鏡的逆行性胆道膵管造影(ERCP)が線維化を反映した主膵管や分枝膵管の異常を最も明瞭に描出できるスタンダードな方法とされている．しかし，ERCPもまた侵襲性が高い．そこで，申請者らは74名の慢性膵炎患者に対し，肝疾患や肺疾患の線維化や予後を反映するとされる血清*Wisteria floribunda* agglutinin-positive Mac-2 binding protein(WFA^{+}-M2BP)値を測定し，健常者と比較した．さらに慢性膵炎の進行度を評価したCambridge 分類との関連性を検討した．血清WFA^{+}-M2BP 値は健常者と比較し慢性膵炎患者で有意に高かった．慢性膵炎患者はCambridge分類でmild，moderate，markedに分類されるが，血清WFA^{+}-M2BP値はこの分類の重症度に添って段階的な上昇を認めた．また，慢性膵炎進行により低下する内分泌・外分泌機能との相関を認めた．多変量解析では血清WFA^{+}-M2BPが他の膵関連因子と独立して中等症以上の慢性膵炎と関連していることが示された．以上の結果より，申請者らは血清WFA^{+}-M2BP値は慢性膵炎の重症度を評価する上で有用である可能性を示した．

以上の成績はこの方面の研究の発展に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが概ね適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。